

### 総合計画における消防力について

(質問) 消防車への4人乗車体制確立に向けて、国は指針の中で乗車人数は5人が望ましいとしているが、本市では、4人以上の乗車が29.8%、3人乗車が70.2%である。定年引き上げを含む今後の職員体制の取り組みについて問う。

(答弁) 4人乗車体制確立に向けて、定年引き上げによる高齢職員の経験を生かし、各消防署の配置人員、出動体制の見直しを図るとともに、消防職員のほか、他部局の職員も含め、今年度中に必要な定数の変更を行う。

その他の質問 ○自治会と地域づくりの在り方



### 公共工事の入札について

(質問) 公共工事の入札においては、公告時の設計図や参考数量書に誤記や不整合が見られる。また、契約締結後にも、図面優先の名の下に数量の誤記などに対応できていない。適切な施工管理に向けて、これらの課題を解決しなければならないが、市の対応を問う。

(答弁) 公告までに確認ができる時間を確保し、誤記や不整合が無いよう徹底する。また、図面が優先で、積算数量の見直しが困難な現状の課題についても、国土交通省の取り組みを参考に、解決に向けて検討する。

その他の質問 ○デジタル化推進



### 「義務教育学校」計画について

(質問) 南部3小学校統廃合の議論は複式学級の是非からスタートしたが、急に9年制義務教育学校という質の異なる出口を提示した計画が出された。新しい小中一貫の学校は9学年27学級の大規模校になるなど、議論すべき問題が多くある。この計画の結論を今年度中に出すのは早計で、鈴鹿市全体の問題として議論すべき。

(答弁) 再編計画(素案)では、令和8年度に3小学校の再編で新たな小学校を、令和14年度を目途に義務教育学校を開校するとしており、まずは天栄中学校区で、小中一貫教育について取り組んでいく。



### 学校給食について

(質問) 給食は義務教育であり無償と考える。今年度491の自治体が無償化を実施。予算の約1%で実施でき、財政調整基金が97億円あるので実現可能と考える。また、子の健全な発達と地域農業振興、環境保全、自給率向上につながる有機給食への転向を教育委員会と農業関連機関が連携し、1品からでも始めてほしい。

(答弁) 給食無償化は国策で実現すべきであり市単独で実施する考えはない。また、有機農業者の育成に努めるが、給食への有機野菜の導入は流通量と価格面から難しい。

その他の質問 ○多胎児育児の支援



### 太陽光の設置について

(質問) 本市は、太陽光発電施設の設置推進について、どのように考えているのか。

(答弁) 本市は、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」の実現に向け、2030年度の温室効果ガス排出量の削減目標を、国が目指す2013年度比で50%の削減と設定している。この高い削減目標を達成するため、公共施設への太陽光発電設備の導入を検討するとともに、市民や事業者に対しても周辺の自然環境や生活環境に配慮した上で太陽光発電の導入を推進していく。



その他の質問 ○鈴鹿南部地域の将来像

### 高齢者の孤独・孤立について

(質問) 独り暮らしで親族などがいない高齢者が、入院・入所などの必要が生じた際に身元保証を求められ、保証人がいないために利用できない事例が全国的にあるが、本市ではどうか。

(答弁) 病院や施設において、身元保証を求める大きな理由は、主に支払いの保証、医療行為の同意、遺体の引き取りなどで、かつ高齢者自身の判断能力の有無でさらに課題は複雑になる。これらの課題解消に向け、成年後見制度などの公的制度の利用促進と「身寄りがない方の入院・入所に関するガイドライン」の作成に向け取り組んでいる。

